

現在日本では、コロナ感染者もようやく落ち着きつつあり、至る所に日常の風景が戻ってきています。このまま再感染拡大することなく、一日も早く元通りの市民生活が送れることを心から願うばかりです。ところで、この報告書の編集作業は伊丹市役所内や隣の総合教育センターで行なってきましたが、実は伊丹市役所も建て替え工事中で、非日常的でした。会議室の変更や予約のバッティングなどもあり、落ち着いて編集作業をするのが少々妨げられることもありました。

こうした中、社会においても女性の自殺率の上昇、DV、婚姻・出生数の低下、働き方改革など、コロナ禍によってあぶり出された問題が次々と起こっています。しかしピンチはチャンスです。こうした男女共同参画と直接関わる問題に多くの市民が関心を寄せて下さるようになることを心から期待しています。

(土肥)

コロナ禍ということもあり、平常時とは違う忙しいときにオンブードのヒアリングや質問に答えてくださった各課の方々ありがとうございました。なかなか市民の方に会えないときでも、虐待や貧困など見えにくい部分も各課や関係機関と連携し、市民がよりよい生活ができるようにサポートしてくださっていることを知りました。

また去年はコロナ禍で困難がはっきり見えた部分もありますが、社会は多様化してきており、外から見ると問題ないと思えても困難を抱えている人も多くいます。市役所職員内だけで考えていると気付かない部分もあるかもしれません。市民の声を聞き少し事業内容を変えるだけでも、性別にかかわらず生きやすくなるかと思います。これからも市民とつながりを持ち、市民の声に耳を傾けてよりよい伊丹市になるように期待します。

(中田)

2年前にオンブードに応募した時は新型コロナウイルスが流行し始めた頃で、コロナ対策が最優先でオンブードの活動どころではないのでは、と思いました。時間が経つにつれ、非正規雇用の方の貧困、シングルマザーの困窮、家事を担う母親の負担増、家庭内のDV増加、女性の自殺の増加など、男女共同参画社会が実現していれば起こらなかったかもしれない問題が次々に現れてきました。

このことから男女共同参画社会の実現は必要だと強く思いました。平成8年度から続く伊丹市の市民オンブードという取り組みも必要であったとあらためて認識しました。

伊丹市の職員の皆さんが上記の問題にどのように対応されたか、現実はどうであったかなどは市民オンブード報告書に詳しく載っています。報告書もどうぞご覧ください。

(星野)

◆相談ができる窓口◆

伊丹市DV相談室

伊丹市配偶者暴力相談支援センター
専門の相談員が相談に対応しています。

TEL:072-780-4327

面接・電話相談 平日 9:00~17:30

(土・日・祝日・年末年始除く) 匿名可



伊丹市立男女共同参画センター ここいろ

伊丹市宮ノ前 2-2-2 伊丹市商エプラザ 5 階

TEL:072-781-5516

・女性のための悩み電話相談

TEL:072-781-5531(毎週月曜・第1日曜)

・男性のための悩み電話相談

TEL:072-781-5532(第1土曜)

・セクシュアルマイノリティ相談

TEL:072-767-1012(毎週金曜)

ここいろでは、女性のための「カウンセリング」・「法律相談」・「チャレンジ相談」や、「就労支援相談」も実施中。お気軽にご相談ください。



伊丹市男女共同参画施策

市民オンブード調査報告(概要版)

(令和2(2020)年度事業内容)



伊丹市長の委嘱により、市民の立場から本市の男女共同参画計画の進捗状況についてチェックする、伊丹市男女共同参画施策市民オンブードの令和2(2020)年度事業内容に対する報告書がまとまり、市長に提出されました。

このリーフレットは、「報告書」の概要版です。

【報告書の目次】

第2期伊丹市男女共同参画計画 進捗状況報告

数値目標及び達成状況

令和2(2020)年 進捗状況の概要

体系表

(参考資料) 伊丹市特定事業主行動計画 実績値状況(女性活躍推進法)

第2期伊丹市男女共同参画計画 市民オンブード調査報告

I 性別に関わりなくともに活躍できるまち

【基本目標1】ワーク・ライフ・バランスの実現と男女平等を推進する

【基本目標2】意思決定の場への性差に偏らない参画を推進する

II だれもが自分らしく暮らしつづけられるまち

【基本目標3】男女共同参画社会を支える市民の意識を高める

【基本目標4】性差に配慮した健康施策を推進する

【基本目標5】困難を有する女性などに対する施策を推進する

III 性別に関わりなく、だれもが安全で安心できるまち

【基本目標6】女性への暴力をはじめとするあらゆる暴力を根絶する

【基本目標7】男女共同参画の視点に立った災害の取り組みを推進する

IV 計画の着実な推進

【基本目標8】連携と協働により計画を推進する

くわしくは、中面へ！⇒

下記のホームページには、市の進捗状況報告を、「概要版」と合わせて掲載しておりますのでご参照ください。

市民オンブード調査報告書(平成20(2008)年度~令和2(2020)年度)

伊丹市ホームページ <http://www.city.itami.lg.jp/>

【発行・問い合わせ】

伊丹市 市民自治部 共生推進室 同和・人権推進課 TEL:072-784-8146 FAX:072-780-3519

オンブード調査報告書

検索

基本目標毎のオンボード評価

【基本目標１】

性別による負担をなくし、男女とも自らの望む働き方ができる社会を

コロナ禍において、減収や休職、退職せざるをえないという話もよく聞きましたが、伊丹市では、特例で猶予期間をもうけ、その間にほとんどの方が再就職できたようです。そして、育児家庭訪問事業も関係機関などから情報があがってきて、家庭のフォローをしているとのこと。働く女性や家事育児で困っている女性のフォローをしてくださるのはありがたいです。

一方で、保育所を探したりするときに市役所に相談する多くは母親が多いとうかがいました。保活など「女性がするもの」という思い込みがあると、負担も大きくなり自らの望む働き方ができにくくなることもあるかと思います。仕事や家事育児で女性だけ制限があるという状態をなくす社会になることを望みます。

仕事と生活の両立についての啓発には、同和・人権推進課が、男女共同推進事業所表彰やパネル展、男女共同参画推進委員による研究及び啓発など、さまざまな取り組みをしていることがわかりました。市民の方たちは、なかなか男女共同参画やワーク・ライフ・バランスについて意識を得る機会も少ないと思われます。

そのため、意見交換や研修などを実施されたのは良かったです。仕事と生活の両立は、多くの方に関心のあることだと思います。これからも多くの人に取組を知ってもらうためにも、やり方や場所を考えて継続していただきたいです。

【基本目標２】

女性の意思決定の場を、職場、地域、学校などへ拡大を

男女共同参画センターでは、伊丹市内の事業所で働く女性に対して、職場での意思決定の後押しとなるような法律を紹介する講座などを開催しています。

これからは、こうした支援の対象を地域や学校などへさらに拡大してほしいと思います。そして、民生委員などのような地域に深く根ざしたリーダーを、長期にわたって見守るしくみ作りに期待しています。

【基本目標３】

男女共同参画社会を支える市民の意識を高めるよう啓発を

男女共同参画センター「ここいろ」の図書・情報スペースに書籍５２６冊、ＤＶＤ２本が追加されました。ジェンダー問題、ＤＶや性暴力防止、性的マイノリティ、ワーク・ライフ・バランスや就労、老後（おひとりさま・8050問題）などジェンダー平等の視点を持ちながら読みやすい本をバランスよく収集されています。専門書だけでなく、小説や漫画コミック、子供向けの絵本や読み物などもあり、いろいろな年代の方への啓発ができるように配慮されています。

今後、小中高生世代の、制服・進路選択・思春期の身体の変化・虐待のことなどを扱った本が充実すると良いと思います。

また、伊丹市では小学校１、２年生を対象に「はじめてのＣＡＰワークショップ」が実施されています。子どもたちへの性暴力・いじめ・誘拐・虐待などへの対処法「いやという・その場をはなれる・誰かに相談する」を早い時期に学べることは大変素晴らしいと思います。

【基本目標４】

対面が難しい時代でもできる工夫を続けて

健康政策課では、窓口対応をする部署に声をかけ、ゲートキーパーを養成する研修をしたとうかがいました。自殺したいほど悩んでいても、どこに相談していいのかわからない方もいらっしゃると思います。どの窓口の職員も、どのような言葉や対応すればいいかわかっていると、自殺に追い込まれる人も減るでしょう。実際、全国的に女性の自殺者数が増加している中、伊丹市では人数が減っているとのこと。施策の成果が現れた可能性が高いと思います。さらに、いたみ健康・医療相談ダイヤル２４もあるため、昼夜に関わらず悩みを相談できるところがあるのは良いと思いました。今後もゲートキーパーの役割を忘れずに、適切な対応をお願いしたいです。

また、自殺ほど悩んでいなくても、子育てなどで悩んでいる人も多くいます。そういう方たちのために子育て世代包括支援センターとして、会議を開催して情報共有し、課題解決に向けて動いているとのこと。今後も動画やホームページなど、外出しにくいときでも情報が得られるように動いていただきたいです。

【基本目標５】

ひとり親家庭が孤立、困窮しないように

コロナ禍でひとり親家庭の困窮はひどくなったようです。ひとり親家庭に対して、自立相談支援事業、無料職業紹介事業、修学支援事業など行われています。自立相談支援事業では失業離職や生活苦などの相談にのり、他の課と連携をとって支援につなげるようにしています。無料職業紹介事業ではハローワークと連携しながら職業の紹介をしています。修学支援事業は金銭的な援助ではなく、子どもたちの貧困の連鎖を食い止めるために、家庭での教育の支援を行っています。コロナ禍での支援金の相談も受けています。

ひとり親への支援や援助はいろいろあります。まずは市役所に相談に行ってください。各課が連携を取りながら、親に対する支援、子どもに対する支援をしています。

ひとり親が孤立しないようにと各地にできたこども食堂も伊丹市内で増えています。ボランティアの学生と遊べる、勉強を教えてもらえる、フードバンクがあるなど特色のある食堂もあります。ひとり親の方だけでなく、興味のある方は、こども食堂にどうぞ！

【基本目標７】

災害時、女性・こども・高齢者に配慮を

伊丹市避難所運営マニュアルの中に「新型コロナウイルス感染予防対策編」が追加されました。３つの密（密閉・密集・密接）を避けた居住スペースの作り方や感染対策の方法などが詳しく記載されました。通路を広くとったり、居住スペースにテントが用意されたり、個人のプライバシーが保てる、着替えや就寝時に女性やこどもが安全になるなど、新型コロナウイルス対策ではありますが、男女共同参画の視点からも改善されて、良い環境作りができるようになったと思います。

ただ、テントやカーテンなどで死角ができると、死角で犯罪が増えないかという心配もあります。このことの対策を考えていただきたいです。

防災の情報提供は出前講座、地域の防災訓練で行っています。昨年度はコロナの影響で中止になることも多々ありました。それに対する対策として、伊丹LINE防災というアプリの試験版を昨年度から行い、令和３（２０２１）年６月から本格的に運用しています。この取り組みは良いと思います。

【基本目標６】

コロナ禍によるＤＶや児童虐待などには、細心の目配りを

ＤＶ相談室によると、コロナ感染拡大の第１波が収まった６月以降に、ＤＶ相談数が増加したそうです。マスメディアが家族の在宅時間が長くなったことによるＤＶ増加の懸念について頻繁に取り上げたことが、相談の後押しとなったのかもしれません。

これが、家庭内で女性が被害を受けることの阻止につながったのであれば、望ましい結果です。ただし、ＤＶそのものの発生が増えたとも考えられます。例えば、比較的高齢の女性からは、自分の年金の振込先の銀行口座を夫が管理する、自由に年金を使わせてくれない、などの経済的ＤＶについての相談も多かったそうです。

コロナ禍の影響は、今後もしばらく続くと思われます。非正規雇用者として母親が働いている単親家庭は、経済的に大きい打撃を受けて問題になりましたが、それと併行して、たとえば夫婦が揃っていても、妻や子どもが、夫のコロナ禍のストレスのはけ口になるようなＤＶが発生することにも目を向け続けてほしいです。

【基本目標８】

男女共同参画計画を着実に推進するための工夫を

男女共同参画推進のための拠点施設である男女共同参画センター「ここいろ」が、2020年度に開所されましたが、残念なことに、コロナ禍により閉館や開館時間の短縮などの変更を余儀なくされました。フリースペースも閑散としていたようです。しかしそれに関わらず、予定していた講座のほとんどが、日時の変更などの工夫を凝らして実施されました。

それらの講座は、多くの市民にセンターへ来て頂くために、対面にこだわり実施されました。そして次期第３期計画（案）では、オンラインの講座の開催も計画されているそうです。

コロナ禍で、多くの方がオンラインを利用する機会が増え、家庭の事情などにより外出が難しい方などには、とても有難いものであることもわかってきました。今後もコロナ前に後戻りはせず、オンラインが日常生活にも溶け込んでいくと思われます。これを上手に男女共同参画計画の実施にも利用してもらいたいです。